2021·2020

ノウフク アワード

NOUFUKU AWARD

ノウ フク

ノウフク・アワード2021に寄せて

農福連携等応援コンソーシアム
会長　皆川 芳嗣

農福連携等応援コンソーシアムの会長の皆川です。コンソーシアムが立ち上がって2年が経過しました。新型コロナ感染症への対処に追われ、多くの人々がリアルで集まるフォーラムが実施出来ないなどコンソーシアムの活動には大きな制約がありました。しかし、ノウフクを広げ深めたいという関係者の熱意はそんな制約を軽々と乗り越えて新しく繋がり胎動を始めています。その具体例の第一がノウフク・ラボです。ノウフク・アワード2020のグランプリに選ばれた鹿児島県の白鳩会の中村理事長がアワード受賞の記念フォーラムで話された一言に触発されて始まった農福の現場の困りごとを解決するプロジェクトです。「トイレ」「ウエアラブル（携帯型体感センサー）」「ショップ」の3つが現在走っています。ノウフク事業を実践されている関係者に加え、得意技をお持ちの民間企業の方、大学の研究者などがワイワイガヤガヤWebでワークショップを開き課題解決の糸口を探っています。興味をお持ちの方々には奮ってコンソーシアムに加入しラボにご参加いただくことを期待します。ノウフクは我々社会の課題の先進地です。ラボで見出した解決策は広く他分野にも応用できます。

次がノウフク・アワード2021です。昨年秋に募集を始めたところ、前年度を上回る205団体から応募がありました。審査委員会による厳正な審査を経て、静岡県の「京丸園」と京都府の「さんさん山城」の2団体がグランプリに、また、人を耕す、地域を耕す、未来を耕すとの観点から11団体が審査員特別賞・優秀賞に選ばれました。さらに2021では農福連携の更なる広がりを目指し「フレッシュ賞」「チャレンジ賞」も選考されています。どの団体も素晴らしい取り組みをされています。詳しくは本誌をご覧になってください。

SDGsが目標年とした2030年は間近です。地域共生社会の実現という夢に確実に近づく道はノウフクを広め深めることと信じています。皆さん共に歩んでいこうではありませんか。

2021·2020

ノウフク アワード

NOUFUKU AWARD

ノウ フク

2021
ノウフク
アワード
NOUFUKU AWARD
2021

ノウフク・アワード2021 概要

審査基準及び新たな表彰部門の設置

農福連携等応援コンソーシアムのアイデンティティである「耕すみんなを応援する」に連動させ「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」という3つのキーワードを評価軸に据えるとともに、取組主体別に評価できる仕組みを導入し、評価を行うことにしました。

また、優秀賞とは別に、優秀賞のレベルには至らないものの、①新たに取組開始5年以内の団体等に対してフレッシュ賞を設けるとともに、②高齢者や生活困窮者等との連携や、水福、林福、地域の伝統産業との連携など、新たなノウフクに取り組んでいる団体等に対してチャレンジ賞を設けることとしました。

応募件数

応募期間については、令和3年9月16日（木）から令和3年11月12日（金）までとして、ノウフクWebなどを通じて広く応募し、全国から205団体の応募がありました。

各賞の選定経過

各賞の選定に当たっては、令和3年12月14日に審査委員会を開催し、各賞を選定しました。グランプリについては、農業法人として、農福連携のモデル的な取組を行っている「京丸園」と、聴覚障害者が集い「京の伝統野菜」を守り地域活性化に貢献している「さんさん山城」の2団体等をW受賞という形で選定しました。

また、審査員特別賞については、「人を耕す」の部として、群馬県の「社会福祉法人ゆずりは会」を、「地域を耕す」の部として、新潟県の「NPO法人立野福祉会」を、「未来を耕す」の部として、「株式会社菜々屋」をそれぞれ選定するとともに、先進的・モデル的取組として、優れた取組を行っていると評価された、「安芸市農福連携研究会」についても、審査員特別賞として選定しました。

この他、フレッシュ賞・チャレンジ賞についてもそれぞれ6団体を選定しましたが、今回残念ながら、賞に選出されなかった取組についても、地域を牽引する素晴らしい事例が多く見られ、農福連携に取り組もうとする団体等の模範となるものであり、今後に期待を抱かせるような取組が数多くありました。

ノウフク・アワードとは

ノウフク・アワードは、全国で農福連携に取り組んでいる団体・企業や個人（以下「団体等」という）を募集し、農福連携の素晴らしさを発信する優れた取組を表彰するものであり、こうした表彰を通じて、国民的運動として農福連携推進の機運を高め、農福連携の全国的な展開に資することを目的に2020年に設立されました。

受賞一覧

グランプリ

京丸園株式会社（静岡県浜松市）

さんさん山城（京都府京田辺市）

審査員特別賞「人を耕す」

社会福祉法人ゆずりは会 菜の花（群馬県前橋市）

審査員特別賞「地域を耕す」

特定非営利活動法人 立野福祉会（新潟県佐渡市）

審査員特別賞「未来を耕す」

株式会社 菜々屋（徳島県徳島市）

審査員特別賞

安芸市農福連携研究会（高知県安芸市）

優秀賞

社会福祉法人誠友会 工房あぐりの里（青森県おいらせ町）

特定非営利活動法人 一粒舎（千葉県木更津市）

株式会社イシイナーセリー（三重県鈴鹿市）

株式会社 いずみエコロジーファーム（大阪府和泉市）

社会福祉法人一麦会 ソーシャルファームもぎたて（和歌山県紀の川市）

一般社団法人STEPUP CoCoRo事業所（宮崎県宮崎市）

株式会社リーフエッヂ あまみん（鹿児島県大島郡龍郷町）

フレッシュ賞

新宿区 障害者福祉事業所等ネットワーク（東京都新宿区）

特定非営利活動法人 わっこ谷の山福農林舎（長野県筑摩郡筑北村）

CuRA！（ちゅら）（新潟県新潟市）

株式会社JAぎふ はっぴぃまるけ（岐阜県岐阜市）

遊士屋（ゆうじや）株式会社（三重県伊賀市）

ウィルチャーファーム（沖縄県沖縄市）

チャレンジ賞

社会福祉法人 青森県すこやか福祉事業団（青森県東津軽郡平内町）

福島県立大笹生支援学校（福島県福島市）

帝人ソレイユ株式会社 我孫子農場 ポレポレファーム（千葉県我孫子市）

社会福祉法人 進和学園 しんわルネッサンス（神奈川県平塚市）

社会福祉法人太陽福祉会 菜の花作業所（和歌山県御坊市）

社会医療法人正光会 さんさん牧場（島根県益田市）

2021 ノウフクアワード NOUFUKU AWARD 2021

グランプリ

京丸園株式会社（静岡県浜松市）

農作業や施設環境を障害者目線で工夫し、老若男女が集まるユニバーサル農業を県内外に発信しています。

概要

1994年、規模拡大のための求人に応募した障害者をきっかけに農福連携を始めました。1997年に障害者雇用をはじめた当時は、家族6人とパート4人でしたが、2021年には、16～85歳の94人（うち障害者22人）が働く農園となりました。

静岡県と協力し、NPO法人ユニバーサル園芸ネットワークを設立。事務局としてユニバーサル農業の研究や普及啓発を行うことで、特例子会社と地域農業を連携するビジネスモデルを構築しました。浜松市に特例子会社を誘致し、7件の農園と連携するネットワークを作りました。

成果

農林水産業

- 作業を分解し、マニュアルを作った結果、多様な人が働きやすくなり、労働力の確保が円滑になりました。
- 地域農業者の経営改善のため農業者と特例子会社や特別支援学校・福祉施設とのマッチングを支援しています。

障害者等

- 採用時に障害者生活・就労支援センターや、特別支援学校、家庭と話し合い、能力と給料を一致させています。
  能力が最低賃金に満たなくても働きたいという意欲がある人を採用するため、労働基準監督署に最低賃金除外申請を提出しており、雇用する22人のうち8人が除外申請対象者です。個別の育成プログラムで給料の向上に努めています。

地域

- 農福連携が農業経営を改善し、強い農業を実現できることを教育機関や他分野の企業で発信しています。
- 静岡県農業法人協会、静岡県農業経営士、浜松市認定農業者協議会の活動を通じ
  ユニバーサル農業とGAPを推進しています。

京丸園株式会社

鈴木 厚志 代表

── グランプリ受賞おめでとうございます。率直なお気持ちを教えてください。

ありがとうございます。公的な場で認めてもらって嬉しい反面、より良いものを仕立て上げていかなければという緊張もあり、身が引き締まる思いです。

── 京丸園では農福連携の概念をさらに押し広げ、ユニバーサル農業を掲げていらっしゃいますが、障害者雇用に取り組む上で思いも寄らぬ効果を感じることはありますか。

人手が欲しくて求人を出したときに、バリバリ働ける人はひとりも来ませんでした。そのため障害者を頼ることになるのですが、障害者が働ける場を作ったら、高齢者が働けることがわかってきました。高齢者が働けるようになったら、女性が働きやすいと集まってきました。女性が集まるようになってきたら、若い人たちが……。結局、僕らが欲しかった人たちが集まる農園になったんですよね。若い人たちに「なんでうちの農園を選んだの」と尋ねると、「農業は大変なイメージがあったけど、障害者が働けるなら私たちにも働けるんじゃないかと思った」と答えたんですよ。障害者が働いていることが、人を呼び寄せてくれていました。

── 多様な方が働ける環境を作るということについて、農業に限らず企業の経営者に対するアドバイスはありますか。

法定雇用率の達成が半数にとどまるように、障害者雇用は進んでいません。ビジネスにおいて障害者をリスクだと捉えているからだと思います。僕も最初そう思っていました。しかし、二十数年一緒にやってみたら、障害者の割合を増やしながら企業を成長させられました。大きくはないかもしれませんが障害者と共に小さくても優しい会社は作れます。そういった組織の方がまとまりやすく逆に儲かりやすいのではないでしょうか。
もう一度、多様性の意味が問われています。ユニバーサル農業に取り組む中で、ビジネスでも本当の意味での多様性があることで強靭性や収益性が生まれると実感します。農業だけではなく、色々な働く場所に多様性というキーワードを持ち込み、何かチャレンジしてみても面白いのではないでしょうか。

2021 ノウフクアワード NOUFUKU AWARD 2021

グランプリ

さんさん山城（京都府京田辺市）

ろう者らが「京の伝統野菜」を守り、地域活性化に貢献しています。

概要

2011年4月、聴覚障害者が集い、働くことを通して社会の一員として活躍できる事業所「さんさん山城」を開所しました。高齢で担い手のいなかった宇治茶の茶園を継承し、抹茶の元である碾茶（てんちゃ）栽培を始めました。
32人の障害者らが宇治茶、京都えびいも、万願寺とうがらし、花菜、京都田辺なすなど地域特産にこだわった農業に取り組み、加工食品製造やコミュニティカフェの運営も行っています。
地元神社の「ずいき神輿」で屋根に使用されるずいきを毎年奉納しているほか、企業・大学・飲食店などと連携して児童養護施設の入所児童を招いた「さんさん食育プロジェクト」など、農福連携を通してローカルSDGsを実践しています。

成果

農林水産業

- 長年の農業経営が評価され、認定農業者となって地域農業を支えています。
- 荒廃農地を活用した農業によって地域課題の解決に寄与しています。
- 伝統野菜の維持・継承において、重要な担い手となっています。

障害者等

- 6次産業化を実現することで、全国平均を大きく上回る工賃実績を達成しています。
- 引きこもり、高齢者、パラスポーツ選手など、あらゆる人たちの活躍できる場を創出しています。

地域

- ノウフクJASをブランド化し、商品価値を高め、地域からノウフクJASの発信を行っています。
- 多種多世代の人たちが集まるコミュニティカフェは、地域になくてはならない場所となっています。

さんさん山城

藤永 実 管理者、 **新免 修** 施設長

── グランプリ受賞おめでとうございます。率直なお気持ちを教えてください。

新免：ありがとうございます。ほんまに期待していませんでしたが、本業の農福連携の分野で評価されて嬉しいです。

── 福祉事業所で取り組む産業として、農業を選んだ理由はなんですか。

藤永：身近にあって地域に根ざした産業に取り組もうというのが基本姿勢でした。「地域で元気に暮らすための居場所」を作ろうと、京田辺で最も地域とつながることができる農業を選びました。地元の農家の取り組みや生活をそのまま取り入れ、農村文化を福祉事業所が維持継承することで、障害者も社会の一員としてさまざまな形で地域貢献できます。
最初に手掛けたのが宇治茶の栽培。茶農家が減り、耕作放棄地が増える中で始めました。技術も機械もなく、経験者もいないため、地元の茶農家に教わって生産できるように。
ろう者は一般のデイサービスで馴染めない人が多いですが、さんさん山城は手話で自由に喋れる「居場所」となっています。

── 地域の中核として広く活動されていますが、これから何を目指していきますか。

新免：これまでと変わらず、地域の人が「近所にさんさん山城があってよかった」と思ってもらえる事業所を目指します。さんさん山城は、さまざまな人が出入りする「開かれた事業所」です。そんなさまざまな人に恩恵がある事業所にしていきたいです。
児童養護施設と連携した「さんさん食育プロジェクト」では、京懐石の料理人や創作フレンチのシェフにさんさん山城食材を使った料理を子どもたちに振る舞っていただきました。子どもたちだけでなく料理人からも貴重な機会をいただいたと感謝されました。このようにいろんな人たちがつながって、地域が元気になる、それが「さんさんノウフク」です。

審査員特別賞「人を耕す」

社会福祉法人ゆずりは会 菜の花（群馬県前橋市）

利用者みんなで農業に取り組み、地域農業の中核となっています。

概要

2014年に「菜の花」を開所し、農業を始めました。現在では、約13ヘクタールの田畑を耕作し、知的・精神・発達・身体障害者23人の利用者全員が通年で農業に従事しています。
法人内の事業所と連携しながら、玉ねぎ、枝豆、ほうれん草、ブロッコリー、キャベツ、長ネギ、にんにく、米、麦などを栽培し、野菜は地元の農協や卸売会社に出荷しています。2016年には保育所の園児と、2017年からは地元小学校の児童と、田植え・稲刈り体験を実施。無肥料・無農薬の自然栽培で育てています。ビール麦を栽培し、農福連携クラフトビールのプロジェクトにも参画しています。

成果

農林水産業

- 地域の農協への出荷の割合（品目によっては20%以上）が増えており、地域農業の中核となりつつあります。
- ライスセンター（米の乾燥調製の受託）事業では、1軒ずつ混ぜずに乾燥するため、農家が自身で育てた米を受け取れます。離農予定だった高齢農家が、孫に自身の米を食べさせたく離農を見送るケースなどもあり、現在では毎年60軒以上の委託を受けています。

障害者等

- 県平均を大きく上回る工賃を実現しました。2020年度の平均工賃は月4.6万円で、7万円ほどを達成する利用者もいます。農業による就労アセスメントを実施したため、開所以来8人が一般就労に移行しました。

地域

- 保育所や小学校との田植え・稲刈り体験は継続しており、交流が深まっています。
- 都内の企業と連携し、コロナ前には毎年40人近い家族連れが農業体験をしています。

審査員特別賞「地域を耕す」

特定非営利活動法人 立野福祉会（新潟県佐渡市）

水路の清掃や除雪でも地域を支え、アートサロン和は地域内外との交流拠点に。

概要

2013年に小規模作業所の開設と同時に、利用者5人職員1人で農業を始めました。現在では利用者20人が、農業委員会を通し受託した農地で、自然栽培による農業に取り組むほか、生産物を使った菓子を販売しています。
2018年、農山漁村振興交付金で「アートサロン和」を開設。地域住民や障害者の居場所、作品展示と販売の場として機能しています。自然栽培品目は米と8品目の野菜で、米はJAに出荷し、野菜は加工するほか、イベントやアートサロン和で販売します。日本農福連携協会や自然栽培パーティ、JA佐渡自然栽培研究会に加入しています。

成果

農林水産業

- 高齢者からの依頼で茶畑や柿園を受け継ぎ、荒廃農地の解消に貢献しています。
- 水田への用水路の掃除に参加し、維持管理に貢献しています。近年は農家からよりも作業所から多く参加しています。

障害者等

- 受託作業した利用者は、月5～6万の収入があります。
- 通所により笑顔が増えています。半年以上の一般就労に移行した利用者は2021年度2人増え、累計6人です。

地域

- 「アートサロン和」を開いたことで地域との交流が盛んになるだけでなく、地域外からの来訪者も増えました。特に地域の高齢者が、日中の居場所として定期的に利用しています。
- ボランティアで地域高齢者宅や公民館前、ゴミ置き場前などの除雪をし、地域に貢献しています。

審査員特別賞「未来を耕す」

株式会社 菜々屋（徳島県徳島市）

県全域の農業法人4社が面の連携により、農業の担い手を産み続けています。

概要

2012年に販売・農福連携を進めるため、農業法人4社の社長が出資して設立されました。4企業の全てが障がい者雇用をしており、2015年から就労継続支援A型事業所をそれぞれの地域で順次スタートさせ、2022年4月には徳島県全域をカバーします。
農作業を幅広くサポートする一方で、現在、野菜の流通販売事業で1.2億円の売り上げがあります。適正価格での野菜販売を継続させることを実現しており、世界を視野に入れ、輸出にも力に入れていきます。今後、10年で5億円の売り上げを目指しています。
30品目以上の農産物販売を伸ばしつつ、県内全域のJAや農家さんの農業経営サポート（草刈り、定植、集荷、調整、出荷作業など）を広げることにより、地域農業の持続可能性を高めていきます。

成果

農林水産業

- グループのA型事業所では農作業のポイントを的確に押さえた評価を実施することで、給料が最低賃金より3%向上しています。
- グループの農業法人でも障がい者をどんどん正規雇用しています。農場長や機械オペレーターとして働いていたり、勤続9年目になる人もいます。
- 25人が一般就職（障がい者枠含む）を実現しました。農家、農協、市役所、学校、その他企業など幅広い分野で働いています。

障害者等

- 農業未経験で障がいや病気を抱えている人が、無理なく農業に挑戦できる環境を県全域に面で作り、地域の農業を支える大きな力として活躍しています。

地域

- 県市町村の依頼や、多方面の勉強会等で農福連携事例を発表し、この循環を広める活動を1年で15回ほど実施しています。

審査員特別賞

安芸市農福連携研究会（高知県安芸市）

安芸市の地域力を結集し、働く障がい者等を支えています。

概要

2018年に設立。「障害があっても仕事はできる！障害等の有無に関係なくすべての人が生きがいを持って自分らしく生活できる社会の実現」を目的に、安芸市福祉事務所・農林課、安芸保健所、福祉事業所、なんこく若者サポートステーション、障害者就業・生活支援センター、JA高知県安芸地区などから構成される同研究会を設立しました。農業の担い手確保や農地などの維持活用、そして障がい者等の就労を確保し、支援体制と連携の確立に取り組んでいます。
活動内容は、講演会・研修会、視察研修、農業体験、農業就労支援の強化などです。

成果

農林水産業

- 農福連携の受け入れ業種が、農業・林業・水産業に波及しました。
- 定着率も高まり、生産性向上や収益向上につながり、規模拡大する農家が出てきました。

障害者等

- 働くことで"自分の居場所"ができ、生きがいにつなげられました。
- 生活困窮状態から抜け出せた人や働き始めてから200万円の貯金ができた人もいます。

地域

- 就労希望者を県内外からも受け入れており、移住者が増えました。
- 障害者や生きづらさを抱えた人たちに対する理解が深まり、より良い社会の実現に近づいています。

優秀賞

社会福祉法人誠友会 工房あぐりの里（青森県おいらせ町）

「賑わいの中での障がい者の活躍・雇用の場」を実現しています。

概要

「地域における障がい者の活躍・雇用の場」を実現したいとの想いから、基盤産業である農業生産と観光農園の運営に取り組み、2007年より本格的に6次産業化に着手。現在では、リピーターや口コミなどにより来場者は年々増加を続け、県内有数の観光スポットとして年間約40万人が訪れるようになり、地元の観光交流拠点として青森県だけでなく県外からも認知されるようになりました。園内では障がい者の就労の場として、新鮮な野菜や南国フルーツなどが栽培できる大規模なハウスや直売所、加工施設、レストラン、圃場等が整備されており、土づくりから苗の植え付け、収穫作業、調理補助や加工作業、動物の世話など職種は多岐にわたっています。

成果

農林水産業

- 農業の担い手確保や地域の活性化を目的として2013年に「もち小麦普及委員会」を設立。もち性小麦「もち姫」の栽培に取り組んでいます。収穫された小麦は、21店舗で取り扱われ、関連商品も40種を超えています。学校給食や福祉施設などで採用されるなど、地域の食材として定着し、経済効果も出てきています。

障害者等

- 2020年度、「農山漁村振興交付金」の交付を受け野菜加工施設を整備。高齢農業者や障害者が、年間を通じて農業の6次産業化に取り組むことが可能となり、安定した就労の場を確保することができました。
- 農作物の選定や作業工程の工夫を重ねることで、作業領域が広がり、養護学校等の産業体験実習や、県立営農大学校生を対象とした農福連携の実習施設として、利用されるなど農業と福祉をつなぐ人材育成の場として活用されています。

地域

- 2020年、町内で直売所を運営している高齢農業団体「ふるさとの味研究会」から休耕地の活用や農作業の委託などの相談を受けたことを契機に、連携して菊芋の栽培と商品開発に取り組んでいます。

優秀賞

特定非営利活動法人 一粒舎（千葉県木更津市）

里山をブルーベリー農園に再生し、障害者が生産・加工・観光農園に携わっています。

概要

2007年に小規模福祉事業所として開所。2011年に就労継続支援B型事業所へ移行しました。知的障害者16人、精神障害者4人の計20人が、ブルーベリーの栽培や加工、販売に取り組むほか、観光農園を営んでいます。草刈りの受注仕事が増えているため、毎年草払い機の安全講習を行い、操作できる障害者を増やしています。隣接する荒廃した里山3㌶を借り受け、再生に取り組んでいます。職員と利用者で廃屋をカフェに改装しました。

成果

農林水産業

- ブルーベリー園は当初の5倍の面積に。農閑期に始めた荒廃農地の草刈りや植栽は、里山を再生しました。

障害者等

- 現在の工賃は（千葉県に300超あるB型事業所で上位5位以内である）4万5千円です。
- 一般就労への移行で退会する障害者はいますが、退職者は少なく、ここ数年の勤続10年の表彰は毎年2、3人います。
- 常に20人の定員はいっぱいですが、多くの入所希望者が見学に訪れます。

地域

- 機械を使える障害者職員が多くいることで、地域の方から草刈りの仕事を頼まれるようになりました。
- ブルーベリー園協議会を通じて、地域や市の行事には欠かさず参加しています。

優秀賞

株式会社 イシイナーセリー（三重県鈴鹿市）

グランドカバー植物「タマリュウ」の出荷量一位を誇り、賃金は県平均を大きく上回っています。

概 要

1971年に社長が就農しサツキなどを生産していました。2000年ごろ、障害者に軽作業を依頼したことがきっかけで、直接雇用に至りました。2011年、特定非営利活動法人ベルプランツを設立し、A型事業所「きらら」を開所しました。造園や緑化工事に欠かせないグランドカバー植物「タマリュウ」の出荷量日本一の生産者であり、通年でタマリュウの定植、除草作業などの農作業を「きらら」の利用者12人に委託しています。成果を可視化するため市場出荷だけでなく、上場企業の造園改修工事、水泳全国大会での屋内装飾といった仕事に取り組んでいます。

成 果

農林水産業

- 作業の細分化や作業環境の工夫により、効率化し、誰が作業しても均一で高品質を維持できるようになりました。
- 生産量日本一と、造園のプロから選ばれ続ける高品質な商品づくりに大きく貢献しています。

障害者等

- 2018年には県内月額平均賃金（7.3万円）より約30%以上高い賃金を実現しています。
- 合計で4人が一般就労に移行しました。7年間ひきこもっていた方が自信を取り戻して一般就労した例も。
- 駒沢オリンピック公園総合運動場 新屋内球技場の屋根緑化への納品などを通じ、生きがい働きがいや仕事の面白さをより感じられるようになりました。
- Amazonへ寄せられた高評価を共有して品質管理に反映させるだけでなく、利用者の励みにしています。

地 域

- 2015年度には、ベルプランツが三重県の伊勢志摩サミット開催記念事業を受託し、サービスエリアでの花壇の制作（デザインから設置、管理、撤去に至るまで）を障害者とともに行いました。

優秀賞

株式会社 いずみエコロジーファーム（大阪府和泉市）

いずみ生協グループとして食品廃棄物から作った堆肥で野菜を生産しています。

概 要

2010年に大阪いずみ市民生活協同組合のグループ会社として農業生産法人を設立しました。2012年、A型事業所を社内に開設。農業生産事業部14人（うち障害者9人）、農産加工などを担当するハートランド事業部14人（うち障害者8人）の従業員28人と、役員を合わせた全社員が農作業に従事しています。
生産した堆肥を畑に投入し、栽培した農産物をいずみ市民生協などに販売する「食品リサイクル・ループ」と地産地消を実現しています。2019年にノウフクJAS認証を取得し、小松菜、きゅうり、ほうれん草、春菊が認証されました。

成 果

農林水産業

- 障害者を多く雇用することで、事業規模が拡大し、遊休農地の解消に貢献できました。
- 「大阪産（もん）」の生産・販売で地産地消に貢献。2020年度は小松菜45万袋、キュウリ12万袋を出荷しました。

障害者等

- 障害者は全員が正社員です。11人が一般就労に移行しました。
- 働きづらさを抱える方がパート勤務、正社員を経て、現在は副施設長として勤務しています。

地 域

- 農業や障害者のイベントに可能な限り参加し、野菜を直売するほか、近隣企業へ「ノウフクJAS」野菜を販売しています。
- 地域内外から見学を受け入れ、障がい者との交流や収穫体験を実施しています。

優秀賞

社会福祉法人一麦会 ソーシャルファームもぎたて（和歌山県紀の川市）

紀ノ川農協と協同して
6次産業化に取り組んでいます。

概要

2001年に「紀ノ川農業協同組合」が直売所「ふうの丘」を開設する際に、隣接して「オープンカフェ風車」を開所。前身団体が2010年から援農隊としてミカン収穫などを手伝っていました。現在は、農業部の障害者6人が、借り受けた農地約2ヘクタールで、たまねぎ、トマト、大根、唐辛子、サツマイモ、キウイを生産しています。

2014年に事業継承した「オープンカフェ風車」と「カフェムリーノ」を運営。近隣農家からの果物や、地元企業が生産するトマトケチャップ、米油などを使っています。
近隣の新岡農園から、じゃばらの加工を請け負うほか、α化米粉の製造など、農家の6次産業化に貢献しています。

成果

農林水産業

- 地元テレビ局や新聞に取り上げられ、県外からの視察もあります。農福関連セミナーや大学の講義等への招待が増加。
- どんな経緯でも積極的に雇用する姿勢や、紀の川支援学校の実習受け入れなどが評価され、就労希望者が多いです。
- 休耕地を中心に借り受けています。食品加工に取り組み、6次産業化を図っています。

障害者等

- 地域の高齢農家の農地の担い手となっています。現在も借り入れ依頼が数件あり、規模拡大を検討しています。

地域

- 地域内外からの訪問者が増え、紀ノ川農協の産直「ふうの丘」にも回遊し、地域の活性化に貢献しています。
- カフェで野菜が使われることで、生産者の意欲が向上し、積極的に農作物の導入提案があります。
- 「ふうの丘」周辺の竹林整備に、もぎたてメンバーと紀ノ川農協組合員が協働して取り組んでいます。

優秀賞

一般社団法人STEPUP CoCoRo事業所（宮崎県宮崎市）

農業を通じた更生を支援し、
矯正施設退所者を含む利用者が活躍しています。

概要

2012年に設立。同年、A型事業所を開きました。利用者全員でできる農業に取り組むため、2016年に農業法人である株式会社CoCoRoファームを設立。矯正施設退所者を含む27名の利用者が土づくりから栽培、収穫、選別、配送まで取り組んでいます。
2020年度に農林水産省「農山漁村振興交付金」を活用し、加工場を設置。野菜の一次加工により収益向上を目指します。
矯正施設退所者を一時的に受け入れる自立準備ホームを運営。また犯罪や非行をした人を雇用し、立ち直りを助ける事業主である「協力雇用主」に2016年に登録しました。農業を通した更生支援に力を入れています。

成果

農林水産業

- 収穫などの施設外就労に積極的に参加しています。地域の行事である草刈りにも参加。
- 2021年には地域からの要望で農地を拡大しており、地域農業の維持に貢献しています。

障害者等

- 障害者の賃金は平均6.3万円で、中には県の最低賃金を上回る時給900円を実現している利用者もいます。
- 2020年には、ある障害者が農業法人への一般就労を果たしました。矯正施設退所者も安定した生活を送っています。

地域

- ノウフクJASを取得したことで取材・視察・講師の依頼が増えており、県内の大手小売店から
  ノウフクJAS商品を取り扱いたいと依頼があり、地域内の販路が広がりました。
- 関連の放課後等デイサービスへは、子どもたちの農作業の様子を知り、依頼が殺到しており、増設を検討しています。

2021 ノウフクアワード NOUFUKU AWARD 2021

優秀賞

株式会社リーフエッヂ あまみん（鹿児島県大島郡龍郷町）

加工・販売・ECサイトの作成に障害者が携わり 6次産業化を実現しました。

概要

2016年にB型事業所「あまみん」開設。同時に近隣農家（マンゴー・バジル・たんかんなど）の手伝いを始めました。精神障害者を中心に5～16名で農作業を、その他の利用者で食品加工（ジェラートやハーブティー）に取り組んでおり、通所だけでなく在宅就労では対人恐怖症の方がECサイトを作成・管理、筋ジストロフィーの方がジェラートのパッケージデザインを行うなどその人にマッチした作業を提供しています。
農家手伝いでは労働対価を作物で得ることで農家の金銭的負担を減らし、いただいた作物や自家栽培のハーブを加工販売することで工賃を稼いでいます。工賃向上のため、各種助成や補助を活用しながら積極的な設備投資を行っています。

成果

農林水産業

- 近隣農家5件にて多品目で季節ごとの農作業を請け負うことで通年の業務を確保できました。
- 町の若手農家グループに所属することにより、農家のニーズを適時に解決できる体制が取れています。

障害者等

- 6次産業化により外仕事、食品加工、販売、デザイン、ECサイト運営、在宅就労など、当施設だけで様々な職種に挑めるようになりました。また作業をチーム制としたことによる所属意識が高まりました。
- 島内外での販売拡大や有名店との取引により、利用者に自信と責任感がつきました。

地域

- 島内外18か所でのジェラート販売やSNS発信により認知度が向上。奄美群島内からOEMの依頼があります。
- 奄美群島の島々からジェラートの素材を集めるため、商工会と連携し商談会に参加して情報収集しています。

2021 ノウフクアワード NOUFUKU AWARD 2021

フレッシュ賞

新宿区 障害者福祉事業所等ネットワーク（東京都新宿区）

地域の百貨店や企業と連携し、養蜂やはちみつを使った商品開発に取り組んでいます。

概要

2017年に設立。障害者の就労機会の創出と工賃向上、地域との連携、障害者理解の促進を目的に、公益財団法人新宿区勤労者・仕事支援センターが事務局となり、新宿区内の障害者福祉事業所等30事業所からなるネットワークを組織しました。2019年には、プロジェクトの一環として「しんじゅ Qualityみつばちプロジェクト」を開始し、現在は、区内3か所で養蜂事業を行っています。福祉事業所が協力して養蜂作業や商品の開発・販売を行っています。
2021年から始まった新宿伊勢丹店パークシティイセタンⅡでの養蜂事業では、採れたはちみつを伊勢丹新宿店に出店する有名菓子店20社に卸し、はちみつを使用した商品開発と販売が行われました。
事務局である新宿区勤労者・仕事支援センターと、養蜂作業を担当する福祉事業所の間で、作業内容に応じた委託契約が結ばれ、委託料が支払われています。

成果

障害者等

- 生き物を育てることへの自覚と責任が生まれ、事業所を休まなくなりました。他の事業所の利用者や企業等の職員に対して作業指導をするなど、自信の回復につながっています。
- ある精神障害者は、生きる意欲が向上し、50歳になってから「自分の夢を実現させたいと」と定時制高校に通い始めました。
- 養蜂作業に伴う、内検作業・採蜜作業・瓶洗浄・瓶詰め・ラベル貼り等、様々な作業に取り組むことで、利用者の工賃向上につながりました。

地域

- 自然環境を保護し、持続可能な社会の実現に貢献しています。
- 障害者福祉事業所と企業、障害者と健常者が互いを認め、活かしあい、協力することができており、垣根のない社会の構築につながっています。

フレッシュ賞

特定非営利活動法人 わっこ谷の山福農林舎（長野県筑摩郡筑北村）

農林福連携で
地域循環型社会の構築を図っています。

概 要

2019年に設立。翌年にはB型事業所を設立し、農林業に加えて製材事業、製油事業を始めました。
農業は、荒廃農地250㌃を借りて古代麦、ケール、にんにく、りんごなどを有機栽培で生産しています。
林業は、松枯れ木の伐採、間伐の請負や林産物加工を行っています。村内温泉施設の木質バイオマスボイラへ薪を供給し、運用しています。薪ストーブ用の薪も製造・販売を行っています。

成 果

農林水産業

- 徐々に農地を拡大することで、荒廃農地を減らし、農地維持に貢献しています。
- 地域で唯一の林業事業者のため、山林管理や施業の窓口機能を果たしています。
- 伐採件数は年間40件。300本以上の危険木を伐採し、安全な暮らしを守っています。

障害者等

- 工賃が向上し、一人暮らしを始めた利用者や、普通自動車免許を取得したり、玉掛け技能講習や林業技術者養成講習を修了したりした利用者もいます。

地 域

- 年間200㌧の間伐材が温泉の燃料として使われています。カーボンニュートラルと地域内での循環を目指しています。
- 移住者の副業支援、農閑期のアルバイト、高齢者の雇用創出を図っています。

フレッシュ賞

CuRA!（ちゅら）（新潟県新潟市）

ハーブと地域の農家の野菜や果物で
ドレッシングなど加工品を作っています。

概 要

2016年に設立。翌年、施設外就労を受け入れて農福連携を始めました。代表と健常者1人、パート2人に加え、2つの福祉事業所から施設外就労を受け入れ、さらに育苗作業を1事業所に委託しています。農地面積は、畑地が74㌃で、ハーブや在来種の野菜を栽培、パイプハウスで育苗や寒さに弱い作物を栽培しています。
「いちからすべて みんなと一緒に」を理念に、圃場整備から販売まで全ての作業に障害者が関わっています。近隣農家が生産する果物や野菜とハーブを組み合わせ、ドレッシングやジャムなど加工品を生産し、県外でも販売。2019年にはサンプルをロシア・フランス・シンガポールに輸出しました。新潟市内の中高特別支援学校の生徒を2018年から毎年実習生として受け入れ、施設外就労の利用者と協働しています。

成 果

農林水産業

- 圃場作業と加工作業を利用者に任せられるため、商談機会が得られ、販路が拡大しました。
- 生産性が3倍以上に上がり、大ロットの発注や、OEMやPB商品の委託に応えられるようになりました。

障害者等

- 異なる福祉事業所の利用者が混ざって農作業しています。チーム分けし、A型事業所の利用者が慣れている作業を、B型事業所の利用者が教わるなど、利用者自身が主役になる機会を設けています。
- 屋内の細かい作業が苦手だった利用者が外で働くことで新たにできることが増えていくことが多いです。

地 域

- JA青年部有志による圃場作業に利用者と参加したところ、「楽しく協働でき、仕事も捗った」とその後も繁忙期には声がかかるようになった。
- 地域の高齢農家の作業を手伝うことで、双方の理解が深まり、孤立する高齢者とコミュニケーションを図っています。

フレッシュ賞

株式会社JAぎふ はっぴぃまるけ（岐阜県岐阜市）

単位JAで初めての特例子会社として新たなモデルを構築しています。

概要

JAぎふ100%出資の特例子会社として、2020年に設立しました。JAぎふで雇用していた障がい者7人と農業部門の新規採用障がい者5人で創業。
飛騨・美濃伝統野菜「まくわうり」の原種苗を農業高校から譲り受け、受託栽培しています。里芋、サツマイモ、とうがらしを栽培するほか、野菜苗、花苗などをLED人工光栽培で生産し販売しています。

成果

農林水産業

- JAぎふ女性部高齢化で廃業の危機にあった「まめなかな味噌」製造事業を継承しました。
- 幻の唐辛子「徳山唐辛子」を旧根尾村、本巣市根尾地区で育て、JAぎふが開発した「徳山唐辛子みそ」はヒット商品になりました。

障害者等

- 保護者と顔の見える関係、相談できる体制を構築し、苦情が激減しました。
- 健常者と同じ資格取得をすることで、働く意欲が高まりました。

地域

- 障がい者向け体験農園として「まるけふぁ～む」を開設し、交流に取り組んでいます。
- 「はっぴぃマルシェ」を開催、地域交流し、栽培した農産物、加工品、飲食の販売を実施しています。

フレッシュ賞

遊士屋（ゆうじや）株式会社（三重県伊賀市）

農福連携で世界に誇れる高品質ないちご生産に取り組んでいます。

概要

2017年に設立。同年、荒廃農地を借り受け、いちご栽培を始めました。農業と福祉を掛け合わせるだけでなく、「世界一だと誇れる仕事をすること」を掲げ、世界中に自分たちの作ったいちごを届けることを事業の根幹に据え、「BERRY」ブランドを作りました。
独自流通ルートを前提とした生産・販売体制を構築し、高品質・高付加価値な日本のいちごを国内外に届けています。

成果

農林水産業

- 品質が認められ、多くの名店に採用されています。個人向け・プロ向け直販、輸出など販路を多角化し、コロナ禍でも安定した実績を上げました。
- 作付面積55アール、育苗施設や準生産施設を含めると1.5ヘクタールを活用。全て耕作放棄地や遊休地です。

障害者等

- ウェッジウッドやモンサンクレール、ミシュラン掲載店などで採用され、モチベーションや生きがいに繋がっています。
- 毎週1回は（会社から発注して）パートのスタッフが、地元食材を使った手作りの食事を振る舞っています。

地域

- 2020年から地域イベントへの参加を増やし、冷凍いちごスムージーやいちごホットワインなどの店を出しています。
- 地元で人気のコーヒー店「HANAMORI COFFEE STAND」とコラボしたふるさと納税返礼品を企画しました。

2021 ノウフクアワード NOUFUKU AWARD 2021

フレッシュ賞

ウィルチャーファーム（沖縄県沖縄市）

車いすで入れる農場で
障害者の自立を目指す教育を行っています。

概要

2012年に営農を開始。2021年にウィルチャーファームを設立し、農福連携に取り組み始めました。障害者支援センター花灯の協力のもと、車いすに特化した農場を設立し、職場体験や実地研修を実施しています。高等特別支援学校の職場体験を4年間受け入れています。実習修了までに野菜の原価計算ができるようになり、自信につながっています。

毎週土曜日、子ども食堂と連携して、子どもたちに植え付け、収穫、配達までのプロセスを実際に見せ、お金の流れ、稼ぎ方の見本を見せています。さらに、地元農家の協力で小菊の販売経験を行っています。
農作業などを通じて障害者教育を行い、自立を促しています。

成果

農林水産業

- 経営者が新しい事業に挑戦し、規模を拡大を模索するため、障害者ができる農作業を増やす努力をしています。

障害者等

- できることが増える喜びを感じ、自信をつけて、一般就労を目指すために、「どうやって作るか、どうやって売るか、どうやって稼ぐか」を教えています。

地　域

- 子ども食堂との連携により、低カリウム野菜の周知につなげている。
- 不登校児を受け入れ、社会とのつながりを設けることで就職活動を手助けしています。

2021 ノウフクアワード NOUFUKU AWARD 2021

チャレンジ賞

社会福祉法人 青森県すこやか福祉事業団（青森県東津軽郡平内町）

農林漁業×福祉での連携の形で
地域に貢献しています。

概要

2012年に設立。10年以上耕作されていなかった農地を借り、障害者28人で水稲栽培などの農作業、薪ストーブ販売店と提携した薪材生産、漁具修繕などの軽作業を行っています。取組が認められ、地域住民から遊休農地賃借の依頼が継続的にあります。
青森県農福連携マルシェに参加し、利用者と共に米や薪材を販売しました。

成果

農林水産業

- 地域の水田の90%超を借り、地域農業の担い手となっています。
- 地域の遊休林などの伐採を請け負うことで、地域の景観を保持し、地域住民と信頼関係を構築しています。
- 漁具保全などの作業を請け負い、後継者不足に悩む漁業者の負担を減らしています。

障害者等

- 業種や作業内容が多岐にわたり、利用者の働きたい意欲が向上しました。
- 林業に興味を持った利用者が、自己研鑽により各種作業免許を取得し、林業事業所へ就職しました。

地　域

- 水田の維持管理による地域景観保全により、自然を舞台とした子どもの遊び場を提供しています。
- 大収穫祭で餅つき大会や「おにぎりコンテスト」を開催し、地域住民と交流しています。
- 漁具修繕等を行うことで、地元漁師と利用者との関りが多く見られるようになりました。